

備忘録 夢の街跡 第3回 吉野を散歩する“楠田行展”

こんにちは。猛暑が続いていますが、いかにお過ごしでしょうか。皆様のお蔭をもちまして、collectiveも6月に丸8年を迎え、9年目の夏に突入しました。ありがとうございます。今後とも宜しく願っています。さて今回は、奈良県の吉野(吉野郡吉野町上市・吉野郡下市町今在家)をご紹介します。そこには明治の遊廓とも、戦後の赤線とも違う‘青色の花’がありました。それでは早速、行ってみましょう。

吉野といえば、桜の名所。吉野山(金峯山寺)の千本桜には毎年多くの観光客が訪れます。『吉野町史 上巻』(吉野町・昭和47年)を紐解くと、今回ご紹介の上市は、金峯山寺の門前町として、市場町として発展したとあります。大正4年、吉野町(当時は村)全体に酌婦は6人で、昭和8年には芸妓4人、酌婦35人。観光地としての性格が、古くからあることが窺えます。また『大和下市史』(下市町・昭和33年)には旅館料理業が13軒とあり、やはり観光地の性格を持っていたようです。街を歩くと、上市では桃色のカフェー調の建物が街道に残っています。ハート型の窓の印象は何とも愛らしいものがありました。「昔は初市の時期になると大変な賑わいで凄かった。置屋もあつたし、色んな世話する仲居さんも居った」(元会社勤務)。また下市には、赤塗りの豪華な寿司屋やモダンなカフェー跡、数寄屋造りの妓楼風の建物などが多数残っており、往時の雰囲気をつたえています。

奈良県警察本部が昭和52年に発行した『奈良県警察史明治・大正編』によれば明治期、県下に存在した貸座敷免許地(遊廓)は4箇所。奈良の木辻、元林院(がんにいん)、そして第1回で採り上げた郡山の東岡、洞泉寺とあります。また、赤線が廃止された昭和33年の「大和タイムス(現奈良新聞)」を繰ると県下3特飲街(赤線)として木辻、東岡、洞泉寺の記事が多数掲載されていました。つまり吉野は、遊廓でも赤線でもありませんでした。今までとは違う匂いがほのかにしてきました。

昭和4年発行『全国花街めぐり』には、日本全国120箇所以上の花街の様子を記載。巻末には後編予告(実際は発行されず)があり、各県で採り上げられなかった花街が列挙されています。奈良県の項でもご多分に漏れず、初瀬(桜井市)、吉野上市、そして下市の記載があります。いわゆる花街の匂いがしてきました。

ここで花街を簡単に説明しておく、芸妓が待機する「置屋」、客が芸妓を呼ぶ「待合、貸席(関西ではお茶屋とも)」、そして待合で楽しむ料理を運ぶ「料理屋」の3業種の集合体が高花街。実際、上市では貸席の擦りガラスが残る料理旅館「桜亭」があります。「桜亭」は昭和9年発行の電話帳『奈良県電話番號簿』にも記載があり、『～番號簿』には「土佐屋」という置屋のほか料理旅館が7軒載っていました。他方『～番號簿』下市の項では置屋4、料理旅館9、料理4、カフェー3軒(いずれも兼業含む)の記載がありました。置屋、そして兼業の鑑札を持つ料理旅館を中心に、そこそこ規模の花街が形成されてたようです。

売春防止法が完全施行されたのは昭和33年4月1日から。県下3赤線は同3月16日、解散式を行い、20日に一斉廃業しました(大和タイムス)。しかし、当時の新聞には、娼妓たちが青線に流れる懸念を伝える記事が多く掲載されています。2月21日の記事を引用すると「県警本部では22日、青線、白線を管内に持つ奈良、郡山、天理、生駒、下市、桜井、五条の署長を集め、同地帯における売春の取締対策協議会を開く」。つまり下市はそこそこ規模の青線地帯でもあったわけです。

温泉場や観光地に色街が存在するのは、今も昔もさほど変わりません。今回は訪れる街の歴史を深掘りすることで、人間ドラマという美味に加え、もう1つの隠れた味を覚えた気がします。それは、遊廓ではない芸妓が居た花街は青線だったのではないかと、という視点。更なる検証は次回の街歩きに譲ることにして、今回はお開きといたします。 誠

主な参考資料・文献(年代順)

『全国花街めぐり』松川二郎／誠文堂(昭和4年)

『奈良県電話番號簿』大阪通信局(昭和9年)

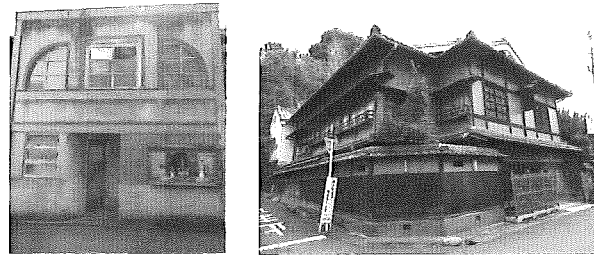
「大和タイムス」大和タイムス社(昭和33年1月～5月)

『大和下市史』下市町史編さん委員会／下市町役場(昭和33年)

『吉野町史 上巻』吉野町史編集委員会／吉野町役場(昭和47年)

『吉野町史 下巻』吉野町史編集委員会／吉野町役場(昭和47年)

『奈良県警察史 明治・大正編』奈良県警察史編集委員会／奈良県警察本部(昭和52年)



吉野町上市(タテ)

ハート型の窓には遊興心をくすぐられたことだろう。

下市町今在家(ヨコ)

寿司屋「弥助」。その大きさ、赤塗りの壁に圧倒される。

information

おかげさまでcollectiveは8周年をむかえました。いつのまにかメンバーも全員三十路になりました。加齢とともに増えてしまったレコードをうまく選別できず迷走しがちなcollectiveを今後ともサポートしてください。

さて、次回コレクティブは冬頃を予定しています。詳細はブログでご確認下さい。

<http://blog-collective.blogspot.jp/>

監督、串かつを語る “hara”

大阪クラブ・フード界隈で串かつの導入に成功、また、実績を取めたのは「串かつ屋はらはら」の店主、わたしです。このような機会を与えていただきましたcollective各位に心から感謝しつつ、美味しい串かつとは何か、など書いてみます。

i) コスモ

みなさんが串かつを食べに行ったときに半分くらい「コレ何？」ってなることがあると思います。松茸・秋刀魚などの旬の食材から、子持ち昆布・えのきベーコンなどの食感を味わえるもの、海老の紫蘇巻き・牛タンにら巻きなどの創作料理まで、口に入れるまで分からない衣に隠された巧妙な心理戦こそが串かつの魅力であります。おでん(*)の具が宇宙に譬えられるように、串かつとは「未知との遭遇」なのです。

ii) シェフ

一般的にわりと誤解されがちなこととして、串かつや天ぷらなどの揚げものは蒸し料理であることをご存知でしょうか。ついついカロリー気になって衣をポウルの端とかで切ってしまうがちですが、これは逆効果で、衣を薄くしてしまったことでネタに油が染み込みやすくなり、中身はギトギトに。蒸し料理と申し上げた通り、衣は蒸し器の役割をしてくれるのです。ご家庭でやる場合はなるべく切らずにネタを衣で覆い尽くして、中に余分な油を浸透させないでカラッと揚げてください。衣に山芋のすりおろしをいれておくと衣が剥がれにくくていいですよ。

iii) 「月」と「旨」

たいいてい串かつ屋では植物性の油よりも動物性の脂を使用しています。主に使われるのは牛のヘッドと豚のラードで、これが一番美味しいです。なんせ脂って「月」にくづきに「旨」うまいですからね。人は本能的に脂が焼ける香りに、強烈な食欲を喚起されます。もちろん、動物性の脂と植物性の油にはそれぞれ利点・欠点があり、こっちの方が体にいいだの悪いだの激しい議論が繰り返されていますが、要は取りすぎによって人体の害となるわけです。上記の方法などで工夫してカラッと揚げさえすれば、そんなに気にしなくてもいいんじゃないかな～胃もたれもしないし。

iv) ♪

そうは言っても実際揚げてるので高カロリーには違いありませんが、気になる人には ♪にお寿司をおすすめします。あと、あがりですね。酔には油脂の分解作用が、お茶には油脂の吸収を抑える効果があるそうです。是非参考してみてください。長々とありがとうございます。

(*)2012/9/14/fri 「ODEN」@bar jaai open11PM-
dj:asami/biff/Hara/makiko/mitsuki/Rie/Yaguchi door.1000yen with1D

名曲探訪 tr.003 “kengo matsui”

<Artist> Marvin Gaye

<Title> Sexual Healing

<YouTube> <http://www.youtube.com/watch?v=NmhriLUBYQ>

今回取り上げる曲は、70年代ソウル界の大スター、マーヴィン・ゲイの最末期1982年の作品です。全米ビルボードブラックチャートで1位(ポップスチャート3位)、83年グラミー受賞の大ヒット曲です。(ただし主要部門はマイケル・ジャクソン “スリラー”が受賞しています。)軽やかに都会の夜の切ないムードを漂わせるアーバンメロウな楽曲で、リズムセクションの打ち込み、シンセサイザーを用いたアレンジと相まって80年代的なサウンドです。この曲は非常にシンプルで、主に平歌とサビの2つのコード進行パターンだけでできていますが、ポイントになる部分はサビの部分だと思えます。サビは下記のコード進行のループです。

<Key : E♭ / Cm>

E♭

Whenever blue tear

G7(※)

drops are falling

A♭ Δ7

And my emotional

Fm7 Gm7 A♭ Δ7 A♭ /B♭

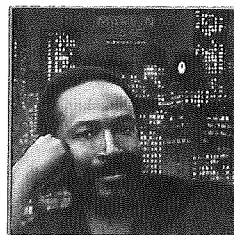
stability is leaving me

※のコード「G7」。これは<E♭キー>の環境では通常「Gm7」になります。G7とGm7は1音だけの違いなのですが、E♭→Gm7とE♭→G7の流れを実際に弾いてみると、Gm7では直前のE♭とコードの構成音が2音重複するためか変化に乏しく、G7のほうがグッと胸に来る切ない響きです。

G7は<E♭キー>の環境には存在しませんが、同じ構成音の別キー(平行短調)である<Cマイナーキー>の環境には存在し、「ドミナント」という音楽的な高まりを作る役割を持つコードです。

次のA♭ Δ7は、コードの構成音4つの中にCmの構成音を全て含んでいます。Cmは<Cマイナーキー>の中心音(ルート)で、G7の「ドミナント」を解決する「トニック」の役割を持ちます。同時にA♭ Δ7は<E♭キー>では「サブドミナント」という切ないムードを出す役割でもあります。

同じ構成音の2つのキーの役割をカクテルさせることで、多層的な機能を持たせるとともに、どちらのキーでもあるような無重力感が醸成され、ベタではない、洗練された軽やかで切ない展開を作っています。



涼音ディスクガイド “tawaki”

例年以上に猛暑の今夏、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年とりわけ、原発に対する問題意識の高まりから、上からの節電指令に従うというよりも、むしろ市民が自ら節電を意識するようになっていきました。ご多分にもれず、我が家も節電モード全開で、今夏のエアコン稼働は2-3日にとどまっています。やせ我慢が祟ってか、膝裏にあせもが出来たりと、悪戦苦闘の日々に秋の訪れが待ち遠しい今日この頃です。そこで、このコラムでは電力に頼らずに暑さを乗り切るための「涼音」について述べさせていただきます。

ポピュラー音楽が好きな人間は、ブラックミュージック派とロックミュージック派に大別されることがしばしばありますが、この人種をベースにした区分け以外にも「暑い音楽」と「涼しい音楽」といった区分けで趣向が語られることもよくあります。僕自身、「黒派」か「白派」かと問われたら、迷わず「黒派」であると答えますが、実際のところ、人種の違い、ジャンルの違いはどようでもよく、「涼しい音楽」がオールタイムフェイバリットだったりします。

レゲエ系だとUKラバーズのダブ音源だったり、ブラジル物だったらやっぱりジョアン・ジルベルトが究極の涼音。ジャズならスカイ・ハイ・プロダクションが手がけたドナルド・バードやボビ・ハンフリーが他と比べても圧倒的に温度が低いですよ。一見涼しい音楽と縁遠いと思われがちなヒップホップではグラミー賞を受賞したこともあるディガブル・ブラネッツが涼音の極北ではないでしょうか。ビブラフォン、マリмба、スチールパン、フルートといった楽器が入ると涼音効果大ですので、涼音音源を入手する際のひとつの手がかりになります。「涼しい音楽」は夏の清涼剤になりますし、夏でなくとも気持ちが悪くなった時の安定剤としても期待できます。ということで、ジャンルレスに涼音名盤をいくつか紹介します。

Jenifa Mayanja 'woman walking in the shadows' (2011)

僕が今、最も注目しているウガンダ生まれ、アメリカ在住の女性ハウスアーティスト。繊細でひんやりしたサウンドは欧州のハウスを彷彿とさせつつも、確かなソウルを感じさせる名盤です。

Cool Notes 'the unreleased demo's' (2012)

80年代に活躍したUKのソウルグループの未発表音源集。近年のブギーミュージック再評価の流れで注目を集めているグループです。アメリカ産のソウルと比べると遥かに涼しいサウンドを奏でていまして。女性のツインボーカルも涼音効果大です。

Mlike Francis 'let's not talk about it' (1984)

イタリア人によるアーバンディスコ/ソウルの名盤。繊細なサウンドプロダクション、か細い歌声はディスコ/ソウルの文脈ではかなり異色。本盤に収録されている'survivor'という曲はクラブクラシックスでもあります。是非youtube等でチェックしてみてください。

Uku Kuut 'vison of estonia' (2012)

エストニア出身の作曲家の珍涼盤。黒さのないシンセファンク。1980年代の音源がついに先頃再発され、話題になっています。

Richard Crandell 'essential tremor' (2010)

エッセンシャル・トレマーという体の痺れを引き起こす難病に罹患したギタリストのリチャード・クランデルが親指ピアノという愛称で知られる「ムビラ」だけで作った意欲作。冷んやりした雰囲気になかに優しさが醸し出した好盤。